

旅時間を波の下で



コンセプト

「波」それは人々を魅了する。
波は昔から絵画や浮世絵などにも数多く描かれ、人々を魅了してきた。そして、波を楽しむものとしてサーフィンが生まれ、さらに自然が生み出す波の音は、人々にやすらぎを与える。
計画施設に隣接する既存ターミナルは、建物中央部が盛り上がった形状となり、大スパンの屋根には赤瓦を使用している。瓦は大地を想像させ、盛り上がった大地は島をイメージできる。これらを踏まえ、本部港に設ける新しい施設は、周囲環境に協調した「波」をモチーフとした。

本施設は、荷捌き場、団体旅行客の待機スペースとしての機能を担うほか、遠くから訪れた旅行者が、旅の疲れを癒すことができる空間、そして楽しい旅の時間、船の待ち時間も楽しめるひとときに変え、ここに訪れた人々が有意義に過ごすことができるような計画とした。

配置図



プラン

コンクリートの建物は、重量感により硬い印象を感じさせられることが多いが、曲面にすることで、**優しくやわらかい印象を与える**。今回の計画は、コンクリートの力強い質感を生かし、利用者が**安心・安全に感じられるもの**とした。

隣接する既存ターミナル待合スペースから北面（当施設側）をみると、海や船、そして奥には瀬底大橋が見通せる。それらの眺望を確保するため、コンテナ位置は**西側にまとめて配置**した。さらに、**壁を南北上に配置**することで、より**眺望の確保**を向上させた。

内部の床は雨天時など内部に水たまりができないよう、GLから200mm上げ、修学旅行生などの旅行者が直接床に座ったり、荷物を置けるよう配慮しデッキを設ける。素材は防腐・防蟻、メンテナンスの容易さを考慮し、人口木デッキとする。さらに高齢者が床に荷物を置く、しゃがむといった困難な動作を避けるようベンチを設けた。

「待ち時間を思い出に」

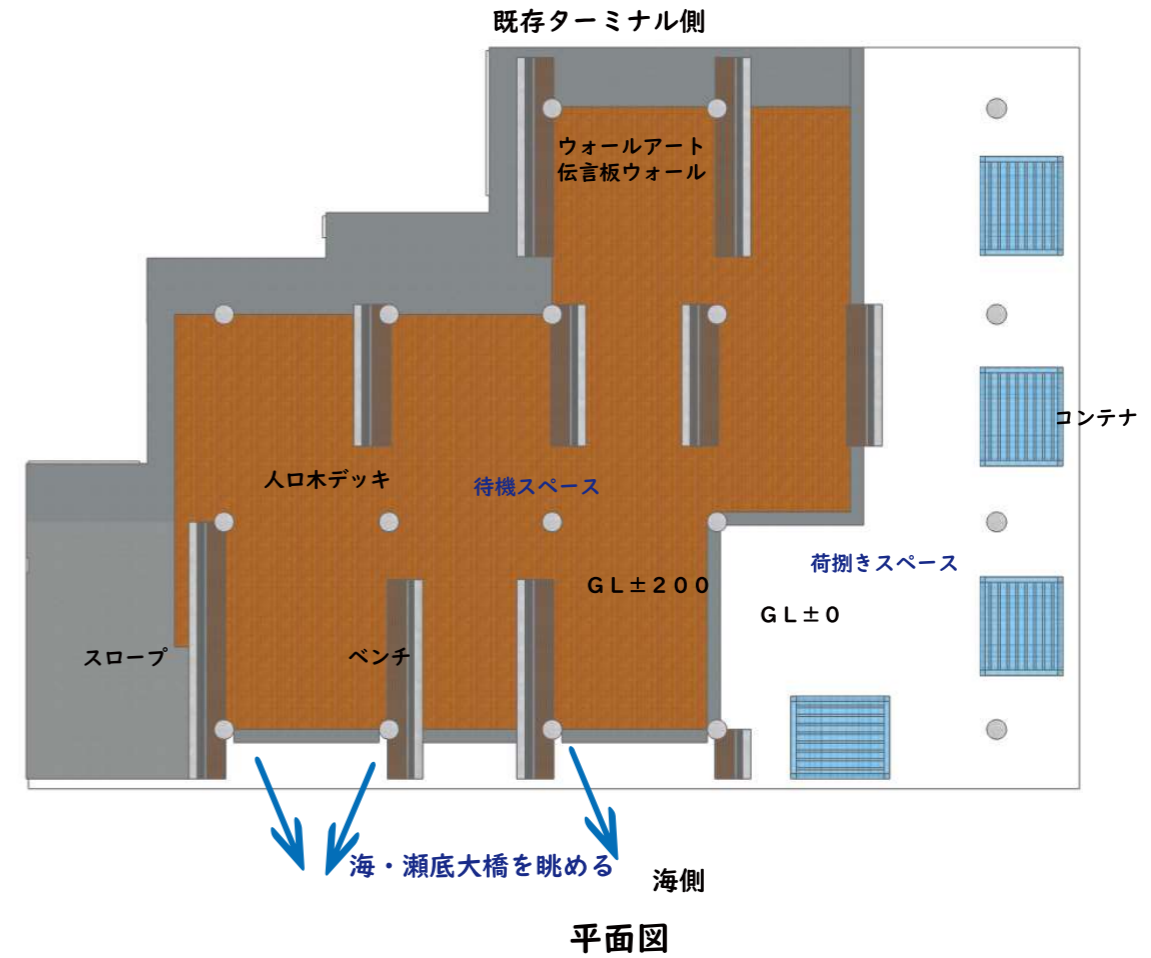
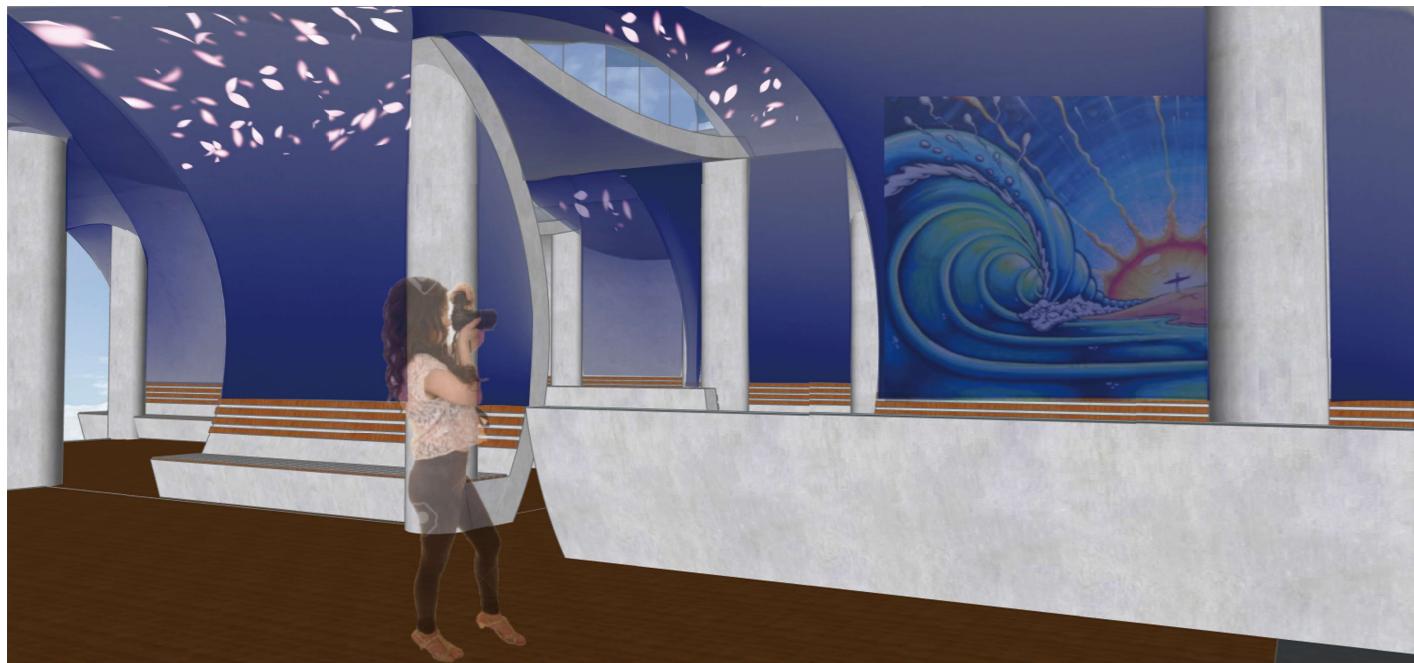
コンクリートの内面は塗装仕上げとし、本部町の魅力を表現した。前面に広がる海・空、これらに同調できる色として、**藍染の青系色を基調**とし、天井面には空に舞い散る**桜をイメージ**した。

船を待つ人は、外の景色を眺めるもよし、壁を眺めるもよし、待ち時間を退屈に過ごすことなく、その土地の文化を感じながら非日常を楽しむ。そして**一部の壁にはウォールアートの提案**をします。

海外旅行の際、街で見かける光景に「**ウォールアート**」がある。旅行者が壁に描かれた絵を背景にポーズを決め撮った写真をInstagramなどで公開している。実際、沖縄でもよく港に描かれている。

現在、本部港は国際クルーズ船拠点形成計画が進められ、今後本部港に訪れる旅行者はさらに増大すると考えられる。そこで、壁の一部をウォールアートとし、本部港に訪れた旅行者が**楽しみ、思い出を残し、また来たい**とそう思えるよう「ウォールアート」の提案をします。

- ①アート制作にかかる費用（塗料等）は志望者が負担。
- ②アートの制作は、事前に施設管理者の許可を得たうえで行う。
- ③志望者が複数の場合、選考・抽選等を実施。
- ④アートは、一年もしくは数年おきに描き換える。



構造・耐久性

海に近接することから耐久性及び耐塩害性を考慮し、構造形式はRC造とした。施設周辺は支持層が深く、杭工事費が高額になると予想される。本施設は平屋で建物重量が比較的小さいことから、基礎はべた基礎（場合により浅層改良）を採用する。

建物の仕上げは、塩害被害を受けやすい材料の使用を避け、耐久性（耐塩害性）の高い材料・塗料を使用する。

建築概要

- ・用途：荷捌き場、旅行者待機場
- ・階数：地上1階建
- ・最高高さ：5.10m
- ・面積（屋根面積）526㎡
- ・構造：RC造